



# もいおかYMCA ニュース

発行日 2001 3. 12



## シリーズYに集う人々④ 竹内一真(かずま)リーダー

### きみでいいんだよ

YMCAのキャッチコピーを募集したところ、彼が上のコピーを考えて持ってきてくれた。現在、岩手大学人文社会学部の1年生。哲学を専攻している。昨年の7月、同じ岩手大学の神永 瞳リーダーの作成したホームページを見て、YMCAにやってきた。

一真リーダー自身も小学生の頃、横浜YMCAのサッカークラブのメンバーで多くのキャンプに参加した経験を持つ。小学生のころの一真リーダーは、サッカーの練習の時、いつも土や草をいじってさっぱりサッカーの練習をしなかったらしい。だから、YMCAのサッカークラブでそういう子を見るとたまらなくとおしくなると言う。

昨年の「こどもための国際交流パーティ」「キッズ・クリスマス」「年始スキーキャンプ」「アドベンチャー1月活動」と数多くのYMCAのプログラムに参加してきた一真リーダー。とにかく「あわても」。ぜんぜん落ち着きがない。きっと小学生のころもあつちでチョロチョロ、こっちでチョロチョロして怒られていたんだろうな。そんな彼にとって彼自身を認めてくれる場がYMCAだったのかも知れない。

「やっぱ、YMCAってこれっすよね。」とキャッチコピーをもって来た、一真リーダーの顔は、自信に満ちていました。サッカーでもキャンプでも誰よりも大騒ぎする一真リーダー。今日も「いまのきみたちがかけがえのないきみたちなんだ」そんな子供達へのメッセージを胸に秘め、チャリンコを飛ばして一真が来る。



2001ニューイヤースキーキャンプで。



横浜YMCAのサッカー合宿で。左の子が小3の一真リーダー

### 地の塩

1999年11月、兵庫県の聖和大学の学生が、大阪YMCAのスリ兰卡プロジェクトに参加しました。これはスリ兰卡の内戦で親の命を奪われた子供達の心のケアキャンプです。

資金のない学生は趣意書を書きました。この趣意書をもって学校の教職員、YMCA職員など多くの人に支援をお願いし、必要経費を集めることができました。

その学生にとっては、生まれてはじめての海外旅行でしたし、都市YMCAとの交流も初めてでした。不安で行った彼が、1週間後、日焼けした顔で、帰国報告にやってきて、「スリ兰卡空港に降り立った瞬間、湿気のある熱風と匂いが空気に漂い、近代的な建物の裏にスラムのバラックが並んでいたのが強烈に印象に残っている。自分が何の不安もなく日本で生きている痛みと矛盾を痛切に感じた」と話してくれました。

まさにYMCAが次世代の若者に対して行うリーダーシップのトレーニングです。いま彼は自分の感じたことの報告会を大学、YMCAなどで精力的に行っています。支援者は一人の若者を支援援助することにより、自分の「自己実現」を彼にたくしたのである。

(聖和大学人文学部教授 長尾ひろみ)

この3月11日(日)盛岡YMCAの4名の若者がタイに出発した。仙台YMCAの実施するタイ農村ワークキャンプに参加するためである。大学生の大槻孝宏リーダー、伊東恵合子リーダー、高校生のボランティアぐるーぷCANの佐藤 翔君、森 貴裕君ある。彼らはアルバイトをしたり、バザーをしたり、国際協力募金で街頭にたったりして準備を進めてきた。タイでは孤児院にバスケットボールのコートを作ってくるらしい。3月27日帰国する。彼らの報告が楽しみである。(濱)



### 3期終了のお知らせ

・サッカー教室、水泳教室、英会話教室3月12からの週が最終のクラスとなります。

※松園英会話教室は3月23日、一般英会話教室は3月26日、英語で歌おうは、3月24日が最終クラスとなります。

### 新年度クラスのお知らせ

4月9日(月)からの週から各クラスが開始となります。新年度のパンフレットは現在作成中です。後日、改めて郵送致します。